

# 令和7年度 第3回恵那市社会教育委員会 会議録

開催日時：令和7年9月18日（水）

午後1時30分～午後3時20分

開催場所：恵那市役所北庁舎 大会議室

## ■会議次第

1. 開会あいさつ
2. 社会教育委員長あいさつ
3. 議題
  - (1) 令和7年度第2回社会教育委員会会議録の承認について
  - (2) 「家庭教育施策の調査研究～学童期を中心に～」の調査研究
    - ・ 総合型地域スポーツクラブ育成推進事業、スポーツ少年団の活動支援
    - ・ 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）
  - (3) 第6期家庭教育支援計画策定部会の報告について
  - (4) 東海北陸社会教育研究大会実践発表について
4. その他
  - ・ 東海北陸社会教育研究大会岐阜大会の参加について  
日時 10月3日（金）10時15分～16時（受付：9時30分～）  
会場 ココロかさなるCCNセンター（瑞穂市）  
案内 別紙資料のとおり
5. 閉会

## 次回日程

日時：令和7年11月21日（金）午後1時30分～

場所：佐藤一斎学びのひろば

内容：第6期家庭教育支援計画（素案）の審議

・出席者の数：社会教育委員14人中11人、事務局3人（以下のとおり）

## 社会教育委員

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員	山田 恵市	文化振興会	出席
2	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
3	委員	高草 環	図書館サポーターえな	出席
4	委員	篠原 正幸	青少年育成市民会議	出席
5	委員	山内 正一	学識経験者	出席
6	委員	相原 正文	学識経験者	欠席

7	委員	柘植 俊夫	民生委員児童委員協議会	出席
8	委員	小林 英文	壮健クラブ連合会	欠席
9	委員	後藤 光男	NPOまちづくり団体	出席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	出席
11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
12	委員	堀井 洋行	恵那ライオンズクラブ	欠席
13	委員	阪上 美代子	スポーツ推進委員連絡協議会	出席
14	委員	山内 峰子	校長会代表（三郷小学校長）	出席

#### 事務局

1	教育長	岡田 庄二	恵那市教育委員会	欠席
2	次長兼課長	柄澤 史枝	恵那市教育委員会 社会教育課	出席
3	管理官	伊東 将昭	社会教育課	出席
4	主幹	遠山 直美	〃 文化振興係	欠席
5	係長	水野 まどか	〃 三学運動推進係	欠席
6	社会教育指導員	丸山 眞理子	〃 三学運動推進係	出席
7	社会教育指導員	太田 礼子	〃 三学運動推進係	欠席

### 1. 開会あいさつ

（事務局）皆さんこんにちは。第3回社会教育委員会を始めさせていただきます。大変暑い中お越しいたきましてありがとうございます。それでは次第に沿って進めさせていただきます。開会あいさつということで、柄澤課長をお願いします。

（課長）皆さんこんにちは。暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。今年はこちらの計画の策定ということで、この会とは別に部会もしてご意見をうかがっています。たくさん意見をいただいて、素晴らしい計画をつくり、実施したいと思えます。支援が届くようにというのが一番大事だと思いますので、本日もたくさん意見を願います。

（事務局）それでは山田社会教育委員長からご挨拶をいただきます。

### 2. 社会教育委員長あいさつ

（委員長）こんにちは。お疲れのところですが、よろしくをお願いします。8月にありました東濃大会では、田口委員に放課後子ども教室の発表をしていただきました。他市の方から、具体的で非常にわかりやすい発表だったと、私の耳にも入ってきてありがたいなと思っています。田口さんが代表で発表いただきましたが、私たちみんなの財産ということで、勉強していきたいと思えます。

今回、家庭教育の支援ということで、自分で考えてみました。自分の子ども時代、自分の子どもが子どもの頃、そして今。昔はたくさん子どもがいました。自分の記憶では、「お巡りさんは怖い」「法を犯したら捕まってしまうかもしれない」という記憶があり

ます。学校の先生に逆らってはいけない、学校では道徳的なことと勉強を教えてくれる。三世代で住んでいたの、祖父母と一緒に暮らしていて、昨日まで一緒に暮らしていた人が、翌日亡くなり、お葬式をやって、数日後にはいなくなるという経験もありました。家庭では、そういう存在を上手に子どもに言い聞かせて伝えていくことで、大部分の子が育っていったと思います。自分の子どもたちの頃は、「あの子が自転車に乗れるようになったから僕も乗れるようになりたい。」と切磋琢磨しながら、親子で自然と練習しました。逆上がりも全員できるように、親子で練習しました。今は、価値観が多様化しすぎて、私の孫は「僕は自転車に乗れなくてもいい。」と言って、ゲームをやっています。一輪車も孫たちは半分しか乗れるようになりませんでした。

時代に即して、20年先を見よ、というのが市の方針ですけど、まずはその1/5の4年後を見て、ご意見を頂戴できたらと思います。

事務局) ありがとうございます。委員長からも紹介がありましたが、8月21日に瑞浪北中学校で東濃地区社会教育振興協議会の研修会がありました。社会教育委員の皆様にもご出席いただきありがとうございます。その時に表彰式があり、岐阜県社会教育委員表彰として阪上委員さんが表彰を受けています。東濃地区社会教育委員表彰ということで、柘植委員さん、相原委員さんが受けられています。報告をさせていただきます。引き続きよろしく願いいたします。

### 3. 議題

(事務局) 委員長には議長として進行をお願いします。

#### (1) 令和7年度第1回社会教育委員会会議録の承認について

(委員長) 議事録につきまして、ニュアンスの違いなど、何かありましたら帰りまでに事務局へお申し出ください。それにおいて承認とさせていただきます。

#### (2) 「家庭教育施策の調査研究～学童期を中心に～」の調査研究

(委員長) 本日は、2点に絞って意見ををお願いします。まとめなくても結構ですので、ひとつはご発言をお願いします。各担当課から現状説明をお願いいたします。

##### ・総合型地域スポーツクラブ育成推進事業、スポーツ少年団の活動支援

(スポーツ課) 子どもの健全育成対策として、総合型地域スポーツクラブ育成推進事業、スポーツ少年団活動支援、新規の事業も含め、現状を説明させていただきます。

古くからあるものとしてはスポーツ少年団で、こちらは小学生から多種目のスポーツを体験して自分に合ったスポーツを探したり、仲間との絆を深めたりして、古くから活動してきています。現状市内には6団体あります。大井、大井第二、長島(武並、恵那北、中野方が統合)、三郷・東野、岩村、恵那南(山岡、明智が統合)。来年度、中学校の統合もあり、スポーツ少年団も統合を検討しています。

地域総合型スポーツクラブは、平成中期にスタートしました。中学校区単位で、地域の若いも若きも参加できるスポーツクラブを展開していこうという国の施策で始まったものです。当時は5つありましたが、現状4つです。恵那East総合スポーツクラ

ブ、明智クラブ、いいなかクラブ、福寿の里スポーツクラブ。西中校区は解散しました。恵那E a s t、明智クラブが県の認定を受け支援を受けています。いいなかクラブと福寿の里スポーツクラブは県の認定外で活動しています。スポーツ少年団も総合型地域スポーツクラブも恵那市スポーツ連盟に加盟しています。どちらも指導者不足、少子化、費用負担など問題を抱えています。恵那市スポーツ連盟の指導者資格取得費用を支援する制度を使っただけです。来年度、学校部活動の地域展開もありますので、指導者バンクの見直しを行っています。

恵那市の児童生徒数は令和7年4月時点で小学生2,018名、中学生1,225名、計3,200名程度です。休日部活動の展開を考える上で、10年度どうなるかという、概ね半減すると言われていています。日本全体では3割減と言われる中、恵那市は5割減でして、全国より急速な少子化が課題となってきます。そんな中、部活動の地域展開においては、休日部活動を学校に頼らず地域に展開していきましようという流れです。平日部活動に関しては、学習指導要領にも定められた活動です。昔のように週5日朝も夕方もということではなく、週2日程度30分とか短い時間ですが、部活動という形をとってやっていく方針です。休日部活動については、地域の方でという中で、一般の指導者をたてまして、土日や夜の練習を保護者クラブという形で展開していただいております、それを地域クラブとして展開していく段取りを進めています。部活動の種目にあるもの以外、学校の総合学習で行われているような活動もクラブ活動にしていきたいと思えます。総合学習で行っている和太鼓をクラブ化したり、先進事例で行きますと、部活動にない棒高跳びクラブをつくられたところがあると聞いています。子どもたちの「やりたい」を形にできるよう、メジャーなもの以外にも展開し、休日の過ごし方の提案にもなるということで、準備委員会を立ち上げて次年度4月スタートという目標を掲げて進めています。

現状の施策については、指導者養成講座を年2回実施しています。専門スポーツ教室10種目は実業団やオリンピックをお招きして、バトミントン、バスケットを実施しました。中部大学と連携し、小学生のかけっこ教室、こども園での運動プログラムを展開しています。中部大学からは、愛知・岐阜の子どもたちの運動能力の低下が著しいと聞いています。より子どもたちに運動に関わってもらい、身体を動かす楽しさを知り、心身ともに育ってほしいと思っています。

(委員長) 強い選手は、親がコーチということが多い。一般の家庭ではそうはいかないので、今のような施策で内容を設定していただいている。質問等ありましたらお願いします。

(委員) 県の認定団体とはどういうことかよくわかりません。

(スポーツ課) 県が認定する地域総合型スポーツクラブの制度があり、認定要件が細かく定められていて、それをクリアする団体で、手を挙げたところが2カ所あります。

(委員) 難しいものですか？

(スポーツ課) 条件が多いので、よければ後日資料を提供させていただきますが、まず県の認定基準と国の認定基準があり、県の方が緩く設定されていましたが、県が国の要件に合わせてきたことが、2団体登録できなかった理由です。

(委員) 認定されるためにはクラブマネージャーの資格を取らなければならない、それを

とりに行ってくれる人がいないということもあります。

(スポーツ課) クラブマネージャーは基準の1つです。クラブの組織体系がどうか基準になります。

(委員) 認定を受けると補助ももらえるので、認定を受けた方がいいけれど、資格もいるし、収支なども報告する必要が出てきて難しいです。

(委員) 部活動の地域移行ということで、文化系も入れてやっていくというのはいいことだと思いました。これまでも土日はある程度保護者クラブでやってきていると思いますが、今度一斉移行の時にどんな違いが出てくるのか知りたいです。部活移行のビジョンがあれば教えてください。

(スポーツ課) 全国的に来年度から求められているのは、休日に関してです。数年後には平日の部活動も移行していくということになります。働き方改革によって教員が関わらなくなるので、すべて地域でやっていただくということです。現在は教員が保護者クラブにも関わって、部活の延長のようになっているところもありますが、一線が引かれるのが大きな違いです。全く関われなくなるのかというと、所定の手続きをとって関わることができます。

(委員) 指導者になれるということですか。

(スポーツ課) 学校の職務としてやらないということです。地域クラブの展開につきましては、「費用面の負担」、「対象は中学生だけなのか」ということが話し合われました。中学校の部活動ではありますが、中学入学前の子どもたちを育成して中学生につなげることや、部活動は中体連で終わりという流れがありますが、中体連以降も継続してもらい、ゆくゆくは指導者になってもらえたらという願いも込めて、クラブ化しようという話になっています。

(委員長) 説明ありがとうございました。

#### ・放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

(子育て支援課) 放課後児童クラブの現状を資料に沿って説明。

共働き、ひとり親、保護者が家庭に居ない子を対象に放課後や長期休暇を安全に過ごす場です。運営は、父母会やNPOが行っており学童保育とも呼ばれています。子どもの数は減っていますが需要は増えています。全21クラブあります。大井小は3つあります。1つのクラブは40人が目安という基準があります。通年は250日以上開設しています。基本的に15時以降の受け入れですが、早帰りの日は早めて実施しています。低学年を優先しています。

(委員長) 質問等いかがでしょうか。

(委員) 定員40人ということでしたが、49人のところがありますが、増やすということですか？

(子育て支援課) 場所の問題もあり、49人で運営してもらっています。

(委員) 中野方は全部来ても60人。30人でも入れないようになっているように思いますが、場所を変えた方がいいのですか？

(子育て支援課) 運営指針によって子ども一人あたりどのくらいの広さが必要と決めら

れているので、人数が少なくとも会場が狭いということであれば、変えることもあります。

（委員）支援員以外でお手伝いする人は資格が必要ですか？

（子育て支援課）支援員以外は必要なく、高校生や大学生でも大丈夫です。支援員は保育士か教員免許の保持者、高卒程度だと2年以上学童に従事している者が試験を受けて支援員になります。支援員1人、補助員1人の2人以上でやっています。

（委員）山岡は古い建物を再利用していますが、他の学校は校内でやっている所が多いです。学校施設を使えないかと数年前から要望を出しています。学校側からは、セキュリティの問題で難しいと言われていています。その後、教育委員会で話し合われているのでしょうか。学校から学童まで1キロ弱歩くことになりますが、低学年と高学年と下校時間が異なるので指導員がそのたび迎えに行っています。何とか学校を使わせてもらえないかと伝えていますが、進展はありそうですか。

（子育て支援課）山岡の学童が学校を使いたいという話を初めて聞きました。指導員さんにも確認したことがありますが、話に出ませんでした。

（委員）指導員さんは別施設の方が使いやすいと思います。学校を借りると、備品や衛生管理も大変になってくると思います。他の学童も見せてもらいましたが、山岡は衛生環境がよくない気がしています。

（子育て支援課）要望に関しては、学校との関係もあるのですぐにできますとは言えませんが、こちらでも確認させていただきます。

（委員長）学童については、各校区の歴史があると思います。明智は最初から校内で、大井小は校外の施設ではじまり、学校の空き部屋でやるようになりましたが、スペースが足りないという問題も出てきました。

（委員）子どもたちが学校で勉強し、体力を使った後の学童保育利用なので、指導員はスキル研修もされていますが、疲れて荒れたり、発達障害があったり、家庭教育が充実していないなどの状況での学童保育の運営は本当に頭が下がります。スタッフをしている友人がいますが、知識がないまま始めたので、荒れた子どもの対応に悩みながらやっています。いろんな背景を持った子の面倒をみている現場の声にどう対応していくか。解決はしなくても聞いてあげてほしいです。

（委員）職員数の規定はありますか？

（子育て支援課）子ども20人に対してスタッフ2人以上、子ども21人～40人程度に対してスタッフ3人以上。障がい児がいる場合さらに1人追加となっています。

（委員）運営費は保護者負担と市からの委託料ですか。その割合は？

（子育て支援課）20クラブで2億円くらいです。その1/3を市が負担しています。多子支援として、保育料は第2子半額免除、第3子全額免除となっており、その免除分は市が負担しています。

（委員長）子どもの育ちに関する第一義的な責任は保護者にあるというのは大前提の上で、学童などがあるわけですが、学童が子育て支援の逆になってしまうことも考えないといけないと思います。スポーツの指導や学童保育については、予算のいることで、私は市の予算を把握しきれていないので「もっと予算をつけて」と言ってしまうのですが、

教えてもらえてよかったです。

ここまでで、各担当課から説明を聞き、質疑応答していただきました。それではここからは意見をいただいています。放課後健全育成からご意見をお願いします。

(委員) 三郷小では、今年の夏に、中高生ボランティアに来てもらいました。歳が近くて子どもとの仲が良くなります。支援の必要な子がひとつの空間に集まって、大暴れしたり飛び出したりします。支援員の先生はよくしてくれるのですが、止められない、追いつけない状況があります。こういった子たちには、放課後デイサービスを勧めることを小学校からもフォローしています。放課後デイとも連携しています。教室でも大変な子が、学童では他学年から集まってきて、支援ニーズの違う子たちをひとつの空間でみくださるのは大変なことだと思います。専門性の高い放課後デイサービスの力を借りるのがいいのではないかと思います。連携を図っています。

夏は校内が暑かったため、冷房の設置された体育館を開放して、動いて発散できたと思います。去年は学童から要望があり、図書館の開放もしました。校長先生の考え方もありますが、学校施設を有効活用して、上手な線引きをして子どもたちにのびのび活動してほしいと思います。学校と学童との連携の大切さを感じています。本校は、学校に入っている支援員さんが学童にも関わっておられ、子どもは学校の様子と学童の様子に違いがありますが、学童での様子を学校に知らせてもらえます。夏休みに限らず、通常の時に学校職員が時々顔を出すこともあります。宿題をやっている様子を見て、宿題の量を少し減らすなど、連携することで、子どもの安定につながっていると思います。

(委員) 放課後デイサービスは、子どもに合わせた見方をしてもらえるのでいいと思います。定員の問題があると思いますが、祖父母が在宅の場合でも見てもらえるなど、緩和してもらえるといいかと思います。

(委員長) 制度設計などがあると思いますが、見直して何とか組み入れることも必要かもしれません。

(委員) 子育て支援という大きな枠で、一律に絵本を配ったり、給食費を無償化したりするのではなく、困っている所に手を伸ばしてあげるのが子育て支援でないかなと思います。小さなことでも、恵那市の制度として考えてもらえたらいいなと思います。長島でも、祖父母が家にいる家庭は入れないと聞きました。一律無償化よりも、朝ご飯を食べてもらえない子への支援ができたらいいいなと思います。

(委員長) これから4年をみた時に、生まれてくる子は年160~180人くらいでしょう。その子たちが健やかに育つように、理想的な制度設計には近づけないかもしれませんが、人とか場所とか環境とか、いろいろ総合して変化に対応できたらいいと思います。

(委員) 放課後子ども教室は月1回の活動でも大変なのに、毎日ある学童の先生は本当に大変だと思います。学校内に学童があるところは放課後子ども教室と学童とが連携しやすいです。第二小の学童は校外ですが、放課後子ども教室の後は学童の先生が体育館まで迎えに来てくれます。移動が大変そうなので、学校内にあったら連携できていいなと思います。

(委員) 支援員さんから、「昔は30人を3人で見ていたが、今、15人になっても3人では見られない」とお聞きしました。小学校1年生の早い段階から多様な子がいます。

(委員長) いろんな子にいろんな人が関わって学童が成立すると思います。  
では次に、スポーツ関係についてご意見をお願いします。

(委員) スポーツクラブは学校から離すというニュースを見ました。子どもが昔、スポーツクラブに入っていて今は指導員になりました。休みの日は百姓を手伝ってほしいのですが、練習に行っています。学校から地域に移すのは良い事なのか、検討お願いできたらと思います。

(委員) 中体連がゴールでなく、生涯スポーツに親しんでいけるようなスポーツクラブになるといいなと思います。保護者は送迎や月謝などの負担から控える家庭もあると思いますので、金銭的支援をしてもらえたらと思います。中学校卒業後も地域のクラブを続けていけるような場にしてほしいと思います。

(委員長) スポーツ、文化両面でやっていってほしいですね。

(委員) 地歌舞伎などの伝統文化への受け皿にもなるといいですね。

(委員) 自分はバスケットの選手をしてきて、中学校のバスケ部、地域クラブの指導者もしてきました。子どもも地域クラブに入っていて思ったことは、子どもたちにとって自己実現の場であるということです。同じ目的を持つ仲間とやっていくのは大切です。ただ、指導者の確保は本当に難しいと痛感しています。専門性、人間性が必要で、暴力暴言などのハラスメントもあり、下手な指導者だと子どもが人間不信になってしまいます。指導者の在り方は大切だと思います。家庭のバックアップも必要なので難しいですが、教員が部活から切り離されていく現状は、社会の流れからして止められません。私は部活人間でしたからどんどんやりたいところですが、やりたい教員は地域でやっていくという形になります。

環境でいうと、使える施設が限られていて取り合いになってしまいます。公園は、小さい子が遊べる公園はありますが、ローラースケートを思いっきりやっていいよとか、バスケットをやってもいいよという公園がありません。長野県はそういう場所が多いです。中学生くらいに目を向けて、スポーツの裾野を広げるような場があちこちにできたらいいなと思います。

青木先生のかげっこ教室ですが、先生が来てくれると子どもたちが生き生きします。本当に専門性の高い先生が走る姿を見せてくれると、一瞬で子どもの眼は輝きます。実業団の選手やプロのバイオリン奏者など本物を見せて憧れが持てる場が増えるといいなと思います。

(委員長) まきがね公園には、なかなか人が集まらないです。スケボーはエコプラザのとこととできるようになりました。少なくなる子どもたち、青少年の場にお金をかけるというのは厳しいのかもしれませんが、子どもたちが自信をもって笑顔が輝くような環境を作ってほしいと思います。

(委員) 私も野球の指導者をやってきましたが、熱量が頼りです。自分の子どもに教えていきたい、うまくさせたいという思いで指導者になりますが、子どもが卒業して、自分も年をとっていきます。次の指導者を育てるまでは難しいです。田舎だとスポーツに携わることも難しいです。

(委員) 保護者からの要求、クレームなどがあると思いますが、学童もスポーツも同じ

で、指導者がいきいきと気持ちよく関われるような環境をつくってあげたいです。

(委員) スポーツ少年団は、元々は一種目でなく、いろいろな種目をしましようということでした。昔は、恵那峡にキャンプ場ができ、スポーツ少年団で自転車やオリエンテーリングをやりました。根の上にはグランピング施設ができて、無料で子どもたちが活動できる場所がなくなってきています。いろんなことをやりたいけれど、野球のみの活動になったり、グラウンドも取り合いになったり、思うようにいきません。スポーツ少年団は、野球は苦手だけど走ることは得意とか、サッカーをやりたいけどクラブチームよりスポーツ少年団で経験したいとか、活動を通して自分の得意なことを見つけて、認めてもらえる場だと思います。中学校に行ったとき、「スポーツ少年団に入っていてよかった」という声をいただき、それを励みに何十年と続けています。育成会の中から、2、3年でもいいので資格を取ってやってもらえる人をお願いしているところです。広くみんなが使える施設があるといいなと思います。

(委員長) 年齢が低いときは、かけっこ、ボール投げ、いろんなことをやりながら自分の適性を見つけていってほしいと思います。その辺は、市の施策として多様な選択肢があるといいなと思います。時間もありますので、以上のことを作業部会に引継ぎお願いします。

### **(3) 第6期家庭教育支援計画策定部会の報告について**

(事務局) 4ページ目に社会教育委員会と策定部会のスケジュールを示してあります。

### **(4) 東海北陸社会教育研究大会実践発表について**

(事務局) 10月3日の東海北陸社会教育研究大会で、恵那市は分科会での発表があります。相原委員さん、山内委員さんをお願いしています。発表内容は前回お渡ししたスライドのとおりです。ご承知おきください。

## **4. その他**

- ・東海北陸社会教育研究大会岐阜大会の参加について

日時 10月3日(金) 10時15分～16時(受付: 9時30分～)

会場 ココロかさなるCCNセンター(瑞穂市)

案内 別紙資料のとおり

(事務局) 社会教育委員に加え、塾長も参加されます。

## **5. 閉会**

(副委員長) 今の子は、AIで調べて即解決する方法を知っています。そういう環境に生まれて育っている真っ只中です。今日の話し合いは、子どもたちがこれから生きていくための必須条件になる一番の根底に思います。体を動かすことの充実感、仲間関係は、これから生きていく中で心の支えになっていくといいます。社会変化に応じて変えていくもの、人として変わらずに置いておかなければいけないもの、どちらかではなく、どうバランスをとると、子どもたちがより良く体験できるかを考えていきたいと思います。